

## カレッジ音楽科 シラバス

科目名	音楽理論(ミュージックセオリーⅢ)	担当教員名	小林 延江	
時間数	30	必修・選択	配当年次	2年次 前期
曜日・時限			教室	
授業の到達目標	コードについての理解を深めると共に、曲の中で実際どのようなコード進行が使われているか等、曲をアナライズしていく力とそれを実践で役立てていける力を身につけていくことを目標とする。			
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する教科書、補助プリント、楽譜と音源を使い、実際に曲の中でどのように使われているのか等も紹介しながら講義し、ワークブックを用い繰り返し問題を解き練習しながら使い方を習得していく。			
【実務経験】	2009年より大阪スクールオブミュージック専門学校で勤務。その他、宝塚エジュケーションクラブ、第一楽器(株)等の音楽教室でピアノ講師として後進の指導にもあたっている。			
回数	授業形態	内容		
1	講義	メジャーダイアトニックコード(ダイアトニックコードについて・コードネーム、ディグリーネームを書けるようにする)		
2	講義	メジャーダイアトニックコードの各機能の意味を知る、主要和音・代理和音について		
3	講義	ケーデンス(終止形、ドミナントモーション、トゥーファイブ、セカンダリドミナント、偽終止について)		
4	講義	転回形の表記方法、ト音記号を用いた簡単なヴォイスイング		
5	講義	ケーデンス(メジャー系)を実際に5線に書いてみる(保留をしながら)		
6	講義	楽譜と音源を用い、前半の総復習		
7	講義	確認テスト		
8	講義	マイナーダイアトニックコードの仕組み(ナチュラルマイナーのみ)		
9	講義	ハーモニックマイナー、メロディックマイナーのダイアトニック		
10	講義	マイナーダイアトニックコードが持つ機能について知る		
11	講義	マイナーキーにおけるケーデンスについて知る、ヴォイスイング(マイナー系)		
12	講義	楽譜と音源を用い、後半の総復習		
13	講義	期末予備テスト		
14	講義	期末テスト		
15	講義	テスト返却、復習		
準備学習 時間外学習	テキストを読んでから出席。			
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	出席回数、授業態度、筆記試験の総合評価		
教材	教科書	ゼロから始める音楽理論、ワークブック		
	参考書			
学生への メッセージ	LM1・2で身につけた基礎知識・読譜力を活かしながら、更に実践に繋がるアレンジ力も身につけていけるようレベルアップ目指して頑張りましょう。			

## カレッジ音楽科 シラバス

科目名	音楽理論(ミュージックセオリーⅣ)	担当教員名	小林 延江
時間数	30	必修・選択	配当年次
曜日・時限			2年次 後期
授業の到達目標	教室		
授業の内容	LM3で身につけたコード進行のパターンを発展させたり、コードに対して使えるスケールを考えアレンジを加えていける力等、読譜力+作曲する際にも役立てていける実践力を身につけていくことを目標とする。		
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する教科書、補助プリント、楽譜と音源を使い、実際に曲の中でどのように使われているのか定番コードパターンや手法等も紹介しながら講義し、ワークブックを用い繰り返し問題を解き練習しながら使い方を習得していく。		
【実務経験】	2009年より大阪スクールオブミュージック専門学校で勤務。その他、宝塚エジュケーションクラブ、第一楽器(株)等の音楽教室でピアノ講師として後進の指導にもあたっている。		
回数	授業形態	内容	
1	講義	ノンコードトーン(経過音、刺繍音、倚音、掛留音、先取音、逸音)	
2	講義	テンションの種類・コード別使用可能テンション	
3	講義	テンションリゾルブ(テンションの解決法・Omitの意味)	
4	講義	アベイラブルノートスケール(コードトーン・テンション・アポイドノートについて)スケールの使い方について	
5	講義	マイナーのアベイラブルの紹介・ドミナントスケール、その他のスケール	
6	講義	楽譜と音源を用い、前半の総復習	
7	講義	確認テスト	
8	講義	メジャー、マイナーのダイアトニックコードの代理コードを中心にダイアトニック外の代理コードも知る	
9	講義	クリシェ、パッシングの手法を学び、コードパターンを発展させる、定番コードパターン	
10	講義	転調のパターンを知り、実践する	
11	講義	楽譜を用い、総復習を行う	
12	講義	楽譜と音源を用い、後半の総復習を行う	
13	講義	期末予備テスト	
14	講義	期末テスト	
15	講義	テスト返却、復習	
準備学習 時間外学習	テキストを読んでから出席		
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	出席回数、授業態度、筆記試験の総合評価	
教材	教科書	ゼロから始める音楽理論、ワークブック	
	参考書		
学生への メッセージ	LM1・2で身につけた基礎知識・読譜力を活かしながら、更に実践に繋がるアレンジ力も身につけていけるようレベルアップ目指して頑張りましょう。		

## カレッジ音楽科 シラバス

科目名	音楽理論(イヤートレーニングⅡ)		担当教員名	小林 延江
時間数	30	必修・選択	配当年次	2年次 前期
曜日・時限			教室	
授業の到達目標	<p>《リズム》4/4拍子, 3/4拍子(タイ付きリズム)ではC G Fの音で4分音符、8分音符、16分音符、4分休符、8分休符、16分休符、付点4分音符、付点8分音符、3連符の混ざったリズムを、6/8拍子では8分音符、16分音符、8分休符、付点4分音符、付点8分音符の混ざったリズムを聴き取れるように。《メロディー》Key: C、Key: F、Key: Cm、Key: Am《2声メロディー》Key: Cのメロディーを正確に聴き取り楽譜に書き表せるように。《2声ハーモニー》1, 3, 4, 5, 6, 8度音程のハーモニーを正確に聴き取れるように。《コード》Key: C 曲を用いてI-IV-V、IV(II)-V-Iの聴き取りができるように。</p>			
授業の内容	<p>※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する          キーボードで弾く音を聴き取り、リズムを感じ、それを表現するトレーニングを行っていく授業です。音感・リズム感・感性を鍛えていくと共に、音を集中して聴く力(集中力)、聴こえてきた音を正確に楽譜に表す力を身につけていきます。ET1・2で学び身につけた音感を実践に繋げていけるよう 要素要素に復習を入れ反復練習を行いながら授業を進めていきます。</p>			
【実務経験】	2009年より大阪スクールオブミュージック専門学校で勤務。その他、宝塚エジュケーションクラブ、第一楽器(株)等の音楽教室でピアノ講師として後進の指導にもあたっている。			
回数	授業形態	内容		
1	講義	1年次復習/聴き取り…4/4,3/4拍子/リズム打ち…6/8拍子/復習(1オクターブ) Key: C/2声メロディー		
2	講義	復習/リズム打ち…6/8拍子/復習(1オクターブ+低いB)/key: Cmでの聴き取り/2声ハーモニーの導入・3度音程のハーモニー練習/コードKey: C I-IV-Vの聴き取り(Hey Jude)		
3	講義	4/4拍子, 3/4拍子…復習(タイ付き)/6/8拍子…既習リズムで書き取り/復習 Key: Cmでの聴き取り/2声ハーモニー・3度の音程/コードKey: C I-IV-Vの聴き取り(贈る言葉)		
4	講義	4/4拍子, 3/4拍子, 6/8拍子/復習(1オクターブ+低いA)/Key: Amでの聴き取り/2声メロディー(ベースラインの書き取り)/2声ハーモニー/トライトーンのハーモニー練習/コードKey: C I-IV-Vの聴き取り(さくら)		
5	講義	4/4拍子, 3/4拍子…復習(タイ付き)/6/8拍子/Key: Amでの聴き取り/ 2声メロディー(ベースラインの書き取り)/2声ハーモニー復習/コードKey: C I-IV-Vの聴き取り		
6	講義	リズム・メロディー復習/2声メロディー(2声の書き取り) Key: C/2声ハーモニー 復習/コードKey: C I-IV-Vの聴き取り		
7	講義	中間確認テスト		
8	講義	テスト返却/リズム4/4拍子, 3/4拍子, 6/8拍子復習/メロディーKey: Fmajorの導入/2声メロディー・2声ハーモニー復習/コードKey: C 復習とIV(II)-V-Iの聴き分け		
9	講義	タイ付きリズム導入/メロディーKey: Fmajor/2声メロディー復習/6度音程のハーモニー練習/コード IV(II)-V-I		
10	講義	タイ付きリズム/メロディー復習 Key: Fmajor/2声メロディー・2声ハーモニー復習		
11	講義	リズム4/4拍子, 3/4拍子の付点8分音符+8分音符リズムの導入/メロディーKey: Fmajor/2声メロディー復習/オクターブとユニゾンのハーモニー練習/IV(II)-V-I		
12	講義	総復習		
13	講義	テスト対策週(まとめ)口		
14	講義	テスト・振り返り		
15	講義	テスト返却・復習		
準備学習 時間外学習	テキストを読んでから出席			
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	出席回数、授業態度、筆記試験の総合評価		
教材	教科書	イヤートレーニング		
	参考書			
学生への メッセージ	週1回の授業を大切に！こつこつと積み重ねていくことで少しずつ耳は鍛えられていきます。ET1・2で学び身につけた音感+α実践で役立てていける耳コピ力を身につけていけるよう、レベルアップ目指して頑張りましょう。			

## カレッジ音楽科 シラバス

科目名	コンピューターミュージック(トラックメイクアドバンス)		担当教員名	横野 康平
時間数	60	必修・選択	配当年次	2年次 前期
曜日・時限		選択	教室	605・606・501
授業の到達目標	ダンスミュージックのジャンルを分析、習得し各自の曲中で使えるようになる事が目標。			
授業の内容	<p>※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する</p> <p>毎回ポイントとなるパートが虫食いになっていたり、制作範囲を指定されるので各自実習時に埋める、又は制作する。MaschineやPushも取り入れていくが台数に限りがあるのでその場合はグループワーク形式で授業を行う。</p> <p>【実務経験】10年以上現役でJ-pop K-popの作曲編曲活動を行なっている。講師活動は4年以上。</p>			
回数	授業形態	内容		
1	演習	Maschineの概要説明Sampler内にある機能の紹介,Drum synthを使って常識にとらわれないDrumKitを作りビート作り。		
2	演習	MaschineのAudioのLoopModeの説明とアイデアの考案、Note modeを使って直感的なトラックメイキングに挑戦。レイヤーテクニックの紹介。		
3	演習	Maschineでベースラインとメロディーの打ち込み。コードストローク。		
4	演習	Maschine内でアレンジを完成させる。Slice方法の紹介。		
5	演習	Maschineで作った素材の書き出し方、Ableton Linkでの同期方法、FXの使用例と作り方。Macroの設定方法。Automationの書き方		
6	演習	Ableton Liveの概要 session viewとarrangement viewの連動のさせかたを知る。いくつかLoopを作って展開を作ってみる		
7	演習	Ableton Liveの概要 session viewとarrangement viewの連動のさせかたを知る。いくつかLoopを作って展開を作ってみる		
8	演習	Ableton Live Launch機能の説明と習得1- Launch Modeを使ってサンプラーっぽく使ってみる		
9	演習	Ableton Live Launch機能の説明と習得2- Launch Modeを使ってランダムイズだけでフレーズを作ってみる。		
10	演習	Ableton Live内の”wabtable”の基本的な使い方からアフタータッチなどのMIDI control設定まで理解する。		
11	演習	MacroやMap機能またMaxForLiveなどを使ってエフェクターやシンセを拡張する術とAbletonのオートメーションを学ぶ。		
12	演習	Abletonでのクロスフェード機能を使ってDJMixやゲーム音楽家のシーン展開を作ってみる。(ステム差し替えなど) Ableton Liveに収録されているエフェクター10選		
13	演習	テストMaschineとLiveのみでdemo作り。		
14	演習	ワークショップ		
15	演習	ワークショップ		
準備学習 時間外学習	各ソフトウェアのオンラインマニュアルなどを読んでおく			
成績評価	1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%) 3. 課題 (%)	実技70% 筆記0% 課題30%		
教材	教科書	データ又は動画		
	参考書	データ又は動画		
学生への メッセージ	今年はガジェット寄り(Maschine push ableton live)の考え方を強化していく方針です。			

## カレッジ音楽科 シラバス

科目名	コンピューターミュージック(トラックメイクアドバンス)		担当教員名	横野 康平
時間数	60	必修・選択	配当年次	2年次 前期
曜日・時限		選択	教室	605・606・501
授業の到達目標	ダンスミュージックのジャンルを分析、習得し各自の曲中で使えるようになる事が目標。			
授業の内容	<p>※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する          毎回ポイントとなるパートが虫食いになっていたり、制作範囲を指定されるので各自実習時に埋める、又は制作する。          MaschineやPushも取り入れていくが台数に限りがあるのでその場合はグループワーク形式で授業を行う。  <b>【実務経験】</b>10年以上現役でJ-pop K-popの作曲編曲活動を行なっている。講師活動は4年以上。</p>			
回数	授業形態	内容		
1	演習	Electro House-ダンスミュージックの基本的考え、構成の習得		
2	演習	FutureHouse-用意した参考曲のコピーをまず出来るようになる		
3	演習	Complextro House-音色又はフレーズのコーラージュで楽曲を制作出来るようになる事		
4	演習	Drum&Bass-用意した参考曲のコピーをまず出来るようになる		
5	演習	DubStep-用意した参考曲のコピーをまず出来るようになる		
6	演習	DirtyTrap-用意した参考曲のコピーをまず出来るようになる		
7	演習	GlitchHop-スイングしたビートを作れるようになる		
8	演習	Future bass-切ないコード進行の分析を行った後Dropで使われている手法を習得する		
9	演習	Lofisound-LofiHipHopなどに使われる手法を習得し作品をつくってみる		
10	演習	ElectroSwing-BigBandSampleなどをサンプリングし説明を参考にし実際に作ってみる		
11	演習	ElectroJazz - Anomalieなどの楽曲を参考にシンセとジャズの融合を研究し混ぜれるようになる		
12	演習	ElectroJazz - FKJなどの楽曲を参考にシンセとジャズの融合を研究し混ぜれるようになる		
13	演習	1コーラステスト(約180分)		
14	演習	ワークショップ		
15	演習	ワークショップ		
準備学習 時間外学習	インターネット等で予習			
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	実技70% 筆記0% 課題30%		
教材	教科書	データ又は動画		
	参考書	データ又は動画		
学生への メッセージ	例年通りジャンル別分析と実習になりますが今年はガジェット寄り(Maschine push ableton live)の考え方を強化していく方針です。個人的な質問などは随時募集中です。			

## カレッジ音楽科 シラバス

科目名	コンピューターミュージック(マニピュレーション&ミキシングⅡ)		担当教員名	西田 和史
時間数	60	必修・選択	配当年次	2年次 前期
曜日・時限		選択	教室	606
授業の到達目標	サウンドクオリティーのアップ。様々な音楽スタイルをマスターし自作曲に応用できるようになる。またその為に必要な機材やソフトを選びコントロールできるようになる。音色だけでなく、音質や空間コントロールの表現を作品制作に取り入れられるようになる。			
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する 時代やジャンルによる、音の違いを学び、それを再現する。そのための各機材のコントロール方法マスターする。また様々な音響特性を再現することで、聴く力を高める。 【実務経験】1994年大阪スクールオブミュージック専門学校卒業。劇団神戸及び、スタジオアクアにてマニピュレーター、エンジニアとして活動。2000年よりPowerFXなど海外サウンドデベロッパーに数多くのサウンドを提供。グリッチ、アンビエント系サウンドを得意とするクリエイター。1996年よりインストラクターとしても活動。			
回数	授業形態	内容		
1	演習	機材・ソフトの性能を引き出す。レコーディング機材、ソフトについて。		
2	演習	アレンジや作品の方向性を理解し、良い音について考える。サウンド分析。		
3	演習	ジャンル・時代・地域によるサウンドの違いと変化を再現する。ビンテージ系。		
4	演習	ジャンル・時代・地域によるサウンドの違いと変化を再現する。ベースミュージック系。		
5	演習	ポストプロダクションの実践。様々なサウンドを組み合わせ、新たなサウンドを構築する。		
6	演習	ドラム&ベースによる楽曲のコントロール。音源のクオリティーとは？		
7	演習	Kickの研究。音源、エフェクターの実践。		
8	演習	リミックス作品制作を通して、ミキシングによるサウンドコントロールスキルアップ。		
9	演習	リミックス作品制作を通して、グループコントロールのスキルアップ。		
10	演習	様々なシンセサイザーの特性を理解しコントロールする。ウェーブテーブル、FMなど。		
11	演習	個体差を含めたエフェクターの詳細(コンプレッサー、イコライザー等)		
12	演習	音響作品の制作を通して、空間と時間的なサウンドの変化コントロールする。		
13	演習	音響作品の制作を通して、エフェクターの詳細を理解し、実践する。		
14	演習	(ワークショップ)		
15	演習	(ワークショップ)		
準備学習 時間外学習	オリジナル曲・講義内容を取り入れた練習曲制作			
成績評価	1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%) 3. 課題 (%)	3.課題 100%		
教科書 参考書	教科書			
	参考書			
学生への メッセージ	良い音楽とは？ 作りたい作品は？ 自身の作品のクオリティーアップを徹底的に！！			

## カレッジ音楽科 シラバス

科目名	コンピューターミュージック(マニピュレーション&ミキシングⅡ)		担当教員名	西田 和史
時間数	60	必修・選択	配当年次	2年次 後期
曜日・時限		選択	教室	606
授業の到達目標	サウンドクオリティーのアップ。様々な音楽スタイルをマスターし自作曲に応用できるようになる。またその為に必要な機材やソフトを選びコントロールできるようになる。音色だけでなく、音質や空間コントロールの表現を作品制作に取り入れられるようになる。			
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する 時代やジャンルによる、音の違いを学び、それを再現する。そのための各機材のコントロール方法マスターする。また様々な音響特性を再現することで、聴く力を高める。 【実務経験】1994年大阪スクールオブミュージック専門学校卒業。劇団神戸及び、スタジオアクアにてマニピュレーター、エンジニアとして活動。2000年よりPowerFXなど海外サウンドデベロッパーに数多くのサウンドを提供。グリッチ、アンビエント系サウンドを得意とするクリエイター。1996年よりインストラクターとしても活動。			
回数	授業形態	内容		
1	演習	復習・自己作品の分析。課題への取り組みと、スキルアップのポイントを探る。		
2	演習	様々なアナログシンセ、アナログエミュレーションシンセの音色特性を分析・理解し、効果的に使用する。シンセパラメータの復習。		
3	演習	実践的なパラメーターコントロール。モジュレーション、ルーティング。複雑なシンセを使いこなす。		
4	演習	FM音源について。特性と音色加工。実践での使用法。		
5	演習	リミックスを通して、様々な音質をもつサウンドの組み合わせ方をマスターする。時代差・機材差を効果的に利用する。		
6	演習	リミックスを通して、様々な音質をもつサウンドの組み合わせ方をマスターする。時代差・機材差を効果的に利用する。		
7	演習	バンドサウンドとシンセサウンドのコンビネーション。		
8	演習	空間の再現・コントロールを利用した表現。各種FXの応用。		
9	演習	アコースティックサウンドの扱いと様々な使用法。		
10	演習	録音・マイクアレンジでの音質・音色コントロール。自作曲への使用。		
11	演習	ノンエフェクトでの作品制作。演奏・空間・ノイズによるサウンドメイク。		
12	演習	オリジナル曲の表現・演出をデフォルメしてみる。自作曲の魅力をもっと知る。		
13	演習	自作曲を素材としてダンスまたはコラージュ系のリミックスを作る。音を客観的に分析する。		
14	演習	(ワークショップ)		
15	演習	(ワークショップ)		
準備学習 時間外学習	オリジナル曲・講義内容を取り入れた練習曲制作			
成績評価	1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%) 3. 課題 (%)	3.課題 100%		
教科書	教科書			
	参考書			
学生への メッセージ	良い音楽とは？作りたい作品は？自身の作品のクオリティーアップを徹底的に！！！！			

## カレッジ音楽科 シラバス

科目名	コンピューターミュージック(Co-Writing)		担当教員名	北野 正人
時間数	60	必修・選択	配当年次	2年次 前期
曜日・時限		選択	教室	301・903・606
授業の到達目標	アナログ機器を学ぶことによって、DAWがいかになアナログのシミュレートであるかを理解でき、物理的な音楽制作の仕組みを理解することを目的とする。 音の原理を学び、飽和を理解し、音数に頼らない、よりプロとしての音楽制作ができることが目標。			
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する ProToolsを使用。デジタルシミュレートと実機との違い。コンソールを使用したルーティングとDAWでのルーティングの統合。倍音やDelayを経ての音の変化。デジタル全盛の中、なぜ海外ではアナログ機器が再燃しているのか？上記仕組みを理解すれば、音の変化がないデジタルで、アナログのように使用できるようになる。 【実務経験】day after tomorrow(avex trax)のメンバーとして、第44回日本レコード大賞新人賞、第17回日本ゴールドディスク大賞ニュー・アーティスト・オブ・ザ・イヤー受賞、ベストヒット 歌謡祭2003ゴールド・アーティスト 賞を受賞、現在所属事務所は株式会社ハウフルス、レーベルはVapに在籍			
回数	授業形態	内容		
1	演習	制作知識1(信号の流れ、音の方向性、周波数の理解する)		
2	演習	制作知識2(位相、イコライジング、レイヤー、周波数からの積み方を学ぶ)		
3	演習	センターラインの作り方1(様々な低域の作り方を学ぶ)		
4	演習	センターラインの作り方2(ワイドレンジでとらえたセンターラインを学ぶ)		
5	演習	機材知識1(605コンソール、コンプレッサーの使用方法を学ぶ)		
6	演習	605コンソールを使用してのトラッキング 各種プラグインの使い方を学ぶ		
7	演習	605コンソールを使用してのトラッキング 各種プラグインの使い方を学ぶ		
8	演習	試験		
9	演習	試験		
10	演習	機材知識2(903studioの使用方法)		
11	演習	機材知識3(AWS900を用いた、イコライジングやコンプを学ぶ)		
12	演習	機材知識4(データ作成方法、ボーカルレコーディングを学ぶ)		
13	演習	AWS900を使用したトラッキングをする		
14	演習	ワークショップ		
15	演習	ワークショップ		
準備学習 時間外学習	各自、自分のセッションデータやパラデータを持参し、授業内で使用できるようにしておく 復習として授業で習ったデータ作成時の注意点等は持参のセッションに常に反映させ			
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	1) 実技試験 100%		
教材	教科書			
	参考書			
学生への メッセージ	今までは早い段階からの機器使用を用いて、より実践的に行っていたのですが、今期からは講義を主とし、より理解度を高める方向に内容をシフトしました。 Co-Writingと書いていますが、内容はコンポーザーが行う、スタジオワーク(納品)までのプロセスを学びます。			

## カレッジ音楽科 シラバス

科目名	音響( REC制作Ⅱ)	担当教員名	北畑 俊明
時間数	90	必修・選択	配当年次
曜日・時限		必修	教室
授業の到達目標	レコーディングエンジニアに求められる機材のオペレーション能力、音響的知識、音楽的センスを実習、研究、実験等で習得。		
授業の内容	<p>※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する</p> <p>現代音楽の各代表楽器のパート別レコーディング方法、ミキシング方法の実践的研究。</p> <p>マイクアレンジメント、ミキシングテクニックの理論的解析と実際。</p> <p>【実務経験】大学卒業後、ドラマー、PAエンジニアの仕事につく。後にアルケミースタジオを設立。以後、レコーディングエンジニアを主に、レコーディングエンジニア、マスタリングエンジニア、PAエンジニア、ドラマーとして活動。</p>		
回数	授業形態	内容	
1	演習	セッションを始める前の準備、メンテナンス、動作確認、調整等について。	
2	演習	モニタースピーカー、モニター環境、デジタル/アナログ環境、リファレンスレベル、について。	
3	演習	波長、位相、音速、が録音に及ぼす影響。残響、距離感、定位、音像について。	
4	演習	モノ、ステレオ、マルチマイク、でのマイクアレンジの理論研究、実験実習。	
5	演習	ボーカルのレコーディング。マイクアレンジ、マイクの選択、機材選択、オペレーション方法について。	
6	演習	ライン楽器、ピックアップ等のレコーディング方法、研究、実験実習。	
7	演習	楽器用アンプのレコーディング研究。実験実習。	
8	演習	アコースティック楽器のレコーディングマイクアレンジの研究、実験実習。アコースティックギター	
9	演習	アコースティック楽器のレコーディングマイクアレンジの研究、実験実習。ピアノ	
10	演習	アコースティック楽器のレコーディングマイクアレンジの研究、実験実習。ドラム単体口	
11	演習	アコースティック楽器のレコーディングマイクアレンジの研究、実験実習。ドラムセット	
12	演習	実践的シグナルプロセッサー イコライザー/フィルターについて	
13	演習	実践的シグナルプロセッサー コンプレッサー/リミッターについて	
14	演習	(ワークショップ)	
15	演習	(ワークショップ)	
準備学習 時間外学習	題材となる楽曲を聴き、その曲のMI X バランスや音色などを解析したうえで授業に臨む		
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	課題(100%)	
教材	教科書	音響設備マニュアル	
	参考書		
学生への メッセージ	一年度に学んだ基本知識をより実践的、実用的にクリエイティブな現場に対応でき、理論、経験、知識をみにつけてください。		

## カレッジ音楽科 シラバス

科目名	音響( REC制作Ⅱ)	担当教員名	北畑 俊明
時間数	90	必修・選択	配当年次
曜日・時限		必修	教室
授業の到達目標	レコーディングエンジニアに求められる機材のオペレーション能力、音響的知識、音楽的センスを実習、研究、実験等で習得。		
授業の内容	<p>※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する</p> <p>現代音楽の各代表楽器のパート別レコーディング方法、ミキシング方法の実践的研究。</p> <p>マイクアレンジメント、ミキシングテクニックの理論的解析と実際。</p> <p>【実務経験】大学卒業後、ドラマー、PAエンジニアの仕事につく。後にアルケミースタジオを設立。以後、レコーディングエンジニアを主に、レコーディングエンジニア、マスタリングエンジニア、PAエンジニア、ドラマーとして活動。</p>		
回数	授業形態	内容	
1	演習	マルチマイクの優位性と問題点について	
2	演習	実際の録音での音質の変化の聞こえと分析	
3	演習	サウンドメイキングの為の機材研究(マイクロフォン)	
4	演習	サウンドメイキングの為の機材研究(空間系)	
5	演習	サウンドメイキングの為の機材研究(ダイナミクス系)	
6	演習	サウンドメイキングの為の機材研究(イコライザー系)	
7	演習	サウンドメイキングの為の機材研究(その他)	
8	演習	作品の仕上がりを想定したレコーディングセッション(録音)	
9	演習	作品の仕上がりを想定したレコーディングセッション(録音)	
10	演習	作品の仕上がりを想定したレコーディングセッション(ミックス)	
11	演習	作品の仕上がりを想定したレコーディングセッション(ミックス)	
12	演習	作品の仕上がりを想定したマスタリング(サウンドメイキング)	
13	演習	作品の仕上がりを想定したマスタリング	
14	演習	作品の仕上がりを想定したマスタリング	
15	演習	(ワークショップ)	
準備学習 時間外学習	題材となる楽曲を聴き、その曲のMI X バランスや音色などを解析したうえで授業に臨む		
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	課題(100%)	
教材	教科書	音響設備マニュアル	
	参考書		
学生への メッセージ	一年度に学んだ基本知識をより実践的、実用的にクリエイティブな現場に対応でき、理論、経験、知識をみにつけてください。		

## カレッジ音楽科 シラバス

科目名	音響( Pro Tool s Adv. )	担当教員名	福岡 直子
時間数	60	必修・選択	配当年次
曜日・時限		必修	教室
授業の到達目標	501		
<p>2年生: レコーディングなどの現場で対応できるスキルを習得。</p> <p>3年生: Pro Tool s システムセットアップの構築。メンテナンス、トラブルシューティング。</p>			
授業の内容	<p>※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する音楽制作における「DAW」。そのシステムで使用されるアプリケーションの一つである「Pro Tool s」を中心に、付随する周辺機器、関連アプリケーション、ファイル管理(マスターデータ、納品方法など)システム構築の概要を習得。</p> <p>【実務経験】2000年大阪スクールオブミュージック専門学校を卒業後、M STA STUDI Oに2年勤務、2002年からアルケミースタジオに所属。サウンドエンジニアとして様々なアーティストのレコーディング、ミックス、マスタリングを手掛ける。</p>		
回数	授業形態	内容	
1	演習	ファイル管理(階層構造の再確認)。マスター(オリジナル)データとバックアップデータについて学ぶ。	
2	演習	ハードウェアやI/O設定(仕組み、新規作成、設定のインポート/エクスポート)を学ぶ。	
3	演習	クロックリファレンスとクロックソース、同期の研究。	
4	演習	初期設定(プラグインや各種設定)の構築を研究。	
5	演習	DAW全般のトラブルシューティングを学ぶ。	
6	演習	Pro Tools/エフェクト(Plug-in)、編集、実践系の授業で学んだことを研究。	
7	演習	Pro Tools/エフェクト(Plug-in)、編集、実践系の授業で学んだことを研究。	
8	演習	Pro Tools/エフェクト(Plug-in)、編集、実践系の授業で学んだことを研究。	
9	演習	Pro Tools/エフェクト(Plug-in)、編集、実践系の授業で学んだことを研究。	
10	演習	Pro Tools/エフェクト(Plug-in)、編集、実践系の授業で学んだことを研究。	
11	演習	実技テスト、解答解説	
12	演習	筆記テスト、解答解説	
13	演習	前期総復習	
14	演習	ワークショップ	
15	演習	ワークショップ	
準備学習 時間外学習	授業や個人制作時にPro Tool sを使用して疑問に思ったことをメモ。		
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	1)実技試験 50% 2)筆記試験 50%	
教材	教科書		
	参考書	音響設備マニュアルなど	
学生への メッセージ	身につけたスキルをさらに磨いて、制作の楽しさを体感しましょう		

## カレッジ音楽科 シラバス

科目名	音響( Pro Tool s Adv. )		担当教員名	福岡 直子
時間数	60	必修・選択	配当年次	2年次 前期
曜日・時限		必修	教室	501
授業の到達目標	<p>2年生: レコーディングなどの現場で対応できるスキルを習得。</p> <p>3年生: Pro Tool s システムセットアップの構築。メンテナンス、トラブルシューティング。</p>			
授業の内容	<p>※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する音楽制作における「DAW」。そのシステムで使用されるアプリケーションの一つである「Pro Tool s」を中心に、付随する周辺機器、関連アプリケーション、ファイル管理(マスターデータ、納品方法など)システム構築の概要を習得。</p> <p>【実務経験】2000年大阪スクールオブミュージック専門学校を卒業後、VI STA STUDI Oに2年勤務、2002年からアルケミースタジオに所属。サウンドエンジニアとして様々なアーティストのレコーディング、ミックス、マスタリングを手掛ける。</p>			
回数	授業形態	内容		
1	演習	Pro Tools 応用(1)		
2	演習	Pro Tools 応用(2)		
3	演習	Pro Tools 応用(3)		
4	演習	Pro Tools 応用(4)		
5	演習	Pro Tools 応用(5)		
6	演習	基礎復習 / 応用		
7	演習	楽曲における編集について		
8	演習	制作時に於ける、的確な操作の判断について		
9	演習	制作時に於ける、的確な操作		
10	演習	ファイル管理		
11	演習	Pro ToolsとDAW(応用)		
12	演習	Pro Tools/エフェクト(Plug-in)(応用)		
13	演習	Pro Tools/編集(応用1)		
14	演習	Pro Tools/ファイル管理(応用)		
15	演習	まとめ		
準備学習 時間外学習	授業や個人制作時にPro Tool sを使用して疑問に思ったことをメモ。			
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	1)実技試験 50% 2)筆記試験 50%		
教材	教科書			
	参考書	音響設備マニュアルなど		
学生への メッセージ	身につけたスキルをさらに磨いて、制作の楽しさを体感しましょう			

## カレッジ音楽科 シラバス

科目名	音響(レコーディングセッション)	担当教員名	吉川 豊
時間数	150	必修・選択	配当年次
曜日・時限		必修	教室
授業の到達目標	<p>現場での「動き」「考えかた」「コミュニケーション力」。 基本となるエンジニア技術を活かし、応用し、制作者&amp;クライアントの求める作品を作り上げるスキル。 スタジオ業務に就いた際に重要とされる上記2点を到達目標とする。</p>		
授業の内容	<p>※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する 1年生で習得した基本となる技術を基に、よりプロのRECSスタジオに近い実践授業を行う。 アレンジ上での楽器の使い方を理解し、どう聴かせるか?聴かせ方。立体的な音の作り方。 protocolsが使われるようになり、エンジニアはより音楽的要素が求められるようになった。それをスピーディーに表現するためのprotocolsの使い方。相手が何を求めているかを理解する力。実践を通じて上記をテーマに授業を進行。 【実務経験】 専門学校を卒業後、大手レコーディングスタジオ2社を経た後、制作事務所勤務。現在StudioMechに籍を置く。 31年間ジャンルを問わず様々なアーティストのレコーディングに参加。</p>		
回数	授業形態	内容	
1	演習	昨年度の復習・先輩達の動きを思い出して動いてみよう	
2	演習	コミュニケーション力。望んでる音が何か?自分んの意見を伝える	
3	演習	コミュニケーション力。望んでる音が何か?自分んの意見を伝える	
4	演習	音の分かる耳を作る。マイキングを工夫しよう	
5	演習	音の分かる耳を作る。マイキングを工夫しよう	
6	演習	聴かせるバランス・望んでるサウンドの聴かせ方	
7	演習	聴かせるバランス・望んでるサウンドの聴かせ方	
8	演習	アプローチのしかた・自分の感じた音の表現・聴かせ方	
9	演習	アプローチのしかた・自分の感じた音の表現・聴かせ方	
10	演習	sound作り・アウトボードを使って個性を出す	
11	演習	sound作り・アウトボードを使って個性を出す	
12	演習	制作・エンジニアとミュージシャンでレコーディング組み立てる	
13	演習	制作・エンジニアとミュージシャンでレコーディング組み立てる	
14	演習	ワークショップ	
15	演習	ワークショップ	
準備学習 時間外学習	常に空いてる時間はprotocolsを触る。 基本MXは宿題にするので時間をかけやりたい事ができるように自主学習を。		
成績評価	(%) 2. 筆記試験 (%) 3. .課題(%)	1) 実技試験(100%)	
教材	教科書	普段聴いてるCD SSL 取説	
	参考書		
学生への メッセージ	好きな事を仕事にするのには、難しい事を沢山覚えなければならない。 難しい事を遊び感覚で楽しんで、できるように工夫する事が使い方の難しい機材を覚えていく上でのコツ。 自分の好きなCDを靴に最低3枚は必ず入れて持ち歩いてください。 家で聞き慣れたるCDをスタジオの良いモニター環境で空いてる時間は常に聴いてください		

## カレッジ音楽科 シラバス

科目名	音響(レコーディングセッション)	担当教員名	吉川 豊
時間数	150	必修・選択	配当年次
曜日・時限		必修	教室
授業の到達目標	<p>現場での「動き」「考えかた」「コミュニケーション力」。 基本となるエンジニア技術を活かし、応用し、制作者&amp;クライアントの求める作品を作り上げるスキル。 スタジオ業務に就いた際に重要とされる上記2点を到達目標とする。</p>		
授業の内容	<p>※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する 1年生で習得した基本となる技術を基に、よりプロのRECスタジオに近い実践授業を行う。 アレンジ上での楽器の使い方を理解し、どう聴かせるか?聴かせ方。立体的な音の作り方。 protocolsが使われるようになり、エンジニアはより音楽的要素が求められるようになった。それをスピーディーに表現するためのprotocolsの使い方。相手が何を求めているかを理解する力。実践を通じて上記をテーマに授業を進行。 【実務経験】 専門学校を卒業後、大手レコーディングスタジオ2社を経た後、制作事務所勤務。現在StudioMechに籍を置く。 31年間ジャンルを問わず様々なアーティストのレコーディングに参加。</p>		
回数	授業形態	内容	
1	演習	リズムREC(pre pro)完成に近い音にするためのマイキングやエフェクターの使い方	
2	演習	リズムREC(本録) preproでやった事をより精度を上げる。エンジニアから提案の仕方	
3	演習	ダビング(ギターetc)各楽器のマイキング。聴かせ方。完成に近いモニターバランス	
4	演習	ダビング(vocal) 録音レベルの取り方。ダイナミックレンジをしっかりとる	
5	演習	リズムREC(pre pro)ミュージシャンとのコミュニケーションをとり、求めるサウンドに近づける	
6	演習	リズムREC(pre pro)ダビング時の事を考慮してのトラッキング方法	
7	演習	ダビング(ギターetc)楽器、アンプの特性を理解し、MIX想定でのトラッキング	
8	演習	ダビング(vocal) マイキング。声に適したマイク選び。コンプのかけ方	
9	演習	MIX マスターレベルの基本的な取り方。エフェクトの処理。	
10	演習	リズムREC(prepro&本録)生徒のみで録音。コミュニケーションをとり何をしたいのか理解する	
11	演習	ダビング(ギターetc、vocal)生徒のみで録音。スケジュール通りに終われる為に何を考えどう行動するか	
12	演習	MIX 音圧の取り方。MIXにおけるダイナミクスの取り方	
13	演習	1日で完パケまで終える。全体の流れを把握し自分がどう行動するべきか	
14	演習	ワークショップ	
15	演習	ワークショップ	
準備学習 時間外学習	常に空いている時間はprotocolsを触る。 基本MIXは宿題にするので時間をかけやりたい事ができるように自主学習を。		
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	1)実技試験(100%)	
教材	教科書	普段聴いているCD SSL 取説	
	参考書		
学生への メッセージ	好きな事を仕事にするには、難しい事を沢山覚えなければならない。 難しい事を遊び感覚で楽しんで、できるように工夫する事が使い方の難しい機材を覚えていく上でのコツ。 自分の好きなCDを靴に最低3枚は必ず入れて持ち歩いてください。 家で聞き慣れたるCDをスタジオの良いモニター環境で空いている時間は常に聴いてください		

## カレッジ音楽科 シラバス

科目名	企画(作詞技法Ⅱ)		担当教員名	木下 智哉
時間数	30	必修・選択	配当年次	2年次 前期
曜日・時限		選択	教室	601
授業の到達目標	制作スピードの向上、制作スキルの向上、柔軟な対応力の強化。			
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する 作詞の実践。様々な楽曲ジャンルの作詞の制作を行い、商業音楽制作における対応力を養う。 【実務経験】作詞・作曲・編曲・サウンドプロデューサー／SCOOP MUSIC所属。／2000年、エレポップ三人組ユニット「epidemic」でポニーキャニオンからデビュー。 5年に及ぶユニット活動休止後、作家として活動を開始。 関西を拠点に作詞、作曲、プロデュース等を手がける。／浜崎あゆみ、中川翔子、V6、NEWS、HeySayJump、AAA等の数々のアーティストへの楽曲提供やアニメの音楽制作などを手がける。			
日程	授業形態	内容		
1	演習	授業概要／作詞課題.1／スピード作詞vol.1		
2	演習	課題.1の添削&掘り下げ／作詞課題.2／スピード作詞vol.2		
3	演習	課題.2の添削&掘り下げ		
4	演習	作詞課題.3／キャラの引き継ぎ作詞		
5	演習	課題.3の添削&掘り下げ		
6	演習	作詞課題.4／イメージ作詞		
7	演習	課題.4の添削&掘り下げ		
8	演習	作詞課題.5／世界観作詞		
9	演習	課題.5の添削&掘り下げ		
10	演習	作詞課題.6／アイドル作詞		
11	演習	課題.6の添削&掘り下げ		
12	演習	作詞課題.7／スピード作詞vol.3		
13	演習	課題.7の添削&掘り下げ		
14	演習	ワークショップ		
15	演習	ワークショップ		
準備学習 時間外学習	制作時間内に書き上がらなかった場合は、持ち帰っての制作あり。			
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	3. 課題100%		
教材	教科書	授業時に配布するプリント各種。		
	参考書	なし		
学生への メッセージ	量が質を生みます。たくさん書きましょう。			

## カレッジ音楽科 シラバス

科目名	企画(作詞技法Ⅱ)		担当教員名	木下 智哉
時間数	30	必修・選択	配当年次	2年次 後期
曜日・時限		選択	教室	601
授業の到達目標	制作スピードの向上、制作スキルの向上、柔軟な対応力の強化。			
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する 作詞の実践。様々な楽曲ジャンルの作詞の制作を行い、商業音楽制作における対応力を養う。 【実務経験】作詞・作曲・編曲・サウンドプロデューサー／SCOOP MUSIC所属。／2000年、エレポップ三人組ユニット「epidemic」でポニーキャニオンからデビュー。 5年に及ぶユニット活動休止後、作家として活動を開始。 関西を拠点に作詞、作曲、プロデュース等を手がける。／浜崎あゆみ、中川翔子、V6、NEWS、HeySayJump、AAA等の数々のアーティストへの楽曲提供やアニメの音楽制作などを手がける。			
日程	授業形態	内容		
1	演習	コンペの発注書から楽曲の制作方向を読み取る／作詞からのアプローチを考える		
2	演習	イメージ作詞 / 漫画・映像からのインスピレーションで作詞する		
3	演習	イメージ作詞 / (完成・提出) / 添削・感想書き合い / 楽曲アナライズ1		
4	演習	コンペの発注書から楽曲の制作方向を読み取る／作詞からのアプローチを考える		
5	演習	シーズンもの作詞 / 季節のイベントにあわせて作詞する		
6	演習	シーズンもの作詞 / (完成・提出) / 添削・感想書き合い		
7	演習	コンペの発注書から楽曲の制作方向を読み取る／作詞からのアプローチを考える		
8	演習	タイアップ案件 / 実際の発注書から、オーダーを読み解き作詞する		
9	演習	タイアップ案件 / (完成・提出) / 添削・感想書き合い / 楽曲アナライズ2		
10	演習	アルバム案件 / 実際の発注書から、オーダーを読み解き作詞する		
11	演習	アルバム案件 / (完成・提出) / 添削・感想書き合い		
12	演習	作詞プロデュース.1> 企画書、キャラクターコンセプト制作、楽曲イメージ作成		
13	演習	作詞プロデュース.1> 制作／発表		
14	演習	ワークショップ		
15	演習	ワークショップ		
準備学習 時間外学習	制作時間内に書き上がらなかった場合は、持ち帰っての制作あり。			
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	3. 課題100%		
教材	教科書	授業時に配布するプリント各種。		
	参考書	なし		
学生への メッセージ	量が質を生みます。たくさん書きましょう。			

## カレッジ音楽科 シラバス

科目名	企画(作曲技法Ⅱ)	担当教員名	小林 哲
時間数	30	必修・選択	配当年次
曜日・時限		必修	教室
授業の到達目標	初級～中級コードワークの習得。自作曲への応用。		
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する		
<p>曲作りにダイレクトに活用、応用できるポピュラー音楽理論の習得。  (Minor Diatonic Chord Progression ～ Non Diatonic Chords ～ Tension)  【実務経験】作編曲家。1998年のデビュー以降、ZARDをはじめビーイング系アーティストの編曲を数多く手がける。1999年より母校でもある大阪スクールオブミュージック専門学校にて作、編曲の講師を務め現在に至る。Steinberg 認定講師。</p>			
回数	授業形態	内容	
1	講義	Diatonic Chord Progression (Minor)の学習	
2	講義	楽曲コード進行分析 1/既存曲を分析し、効果的なDiatonic Chordの使い方を学ぶ	
3	講義	楽曲コード進行分析 2/既存曲を分析し、効果的なDiatonic Chordの使い方を学ぶ	
4	講義	裏コード、Secondary Dominant 7th Chord の学習	
5	講義	Line Cliche、Major Key におけるSDmコードの学習	
6	講義	Bluesy 7th、偽終止の学習	
7	講義	特殊な偽終止、循環コードの学習	
8	講義	Tensionの学習	
9	講義	Tension Resolveの学習	
10	講義	変則的な解決、Low Inteval Limitの学習	
11	講義	Passing Diminishの学習	
12	講義	総復習	
13	講義	前期内容について、筆記試験	
14	演習	ワークショップ	
15	演習	ワークショップ	
準備学習 時間外学習	自曲のコードワークの見直し。		
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	2、筆記試験 100%	
教材	教科書	なし	
	参考書	なし	
学生への メッセージ	自曲に様々なバリエーションを加えたり、自分の生み出したメロディーを更に輝かせる為に必要な知識になります。真剣に取り組んで下さい。		

## カレッジ音楽科 シラバス

科目名	企画(作曲技法Ⅱ)	担当教員名	小林 哲
時間数	30	必修・選択	配当年次
曜日・時限		必修	教室
授業の到達目標	初級～中級コードワークの習得。自作曲への応用。		
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する 曲作りにダイレクトに活用、応用できるポピュラー音楽理論の習得。 (Minor Diatonic Chord Progression ～ Non Diatonic Chords ～ Tension) 【実務経験】作編曲家。1998年のデビュー以降、ZARDをはじめビーイング系アーティストの編曲を数多く手がける。1999年より母校でもある大阪スクールオブミュージック専門学校にて作、編曲の講師を務め現在に至る。Steinberg 認定講師。		
回数	授業形態	内容	
1	演習	応用理論の学習①	
2	演習	応用理論の学習②	
3	演習	応用理論の学習③	
4	演習	応用理論の学習④	
5	演習	応用理論の学習⑤	
6	演習	応用理論の学習⑥	
7	演習	応用理論の学習⑦	
8	演習	応用理論の学習⑧	
9	演習	応用理論の学習⑨	
10	演習	応用理論の学習⑩	
11	演習	応用理論の学習⑪	
12	演習	後期内容の復習⑫	
13	演習	後期内容についてのレポート作成	
14	演習	ワークショップ	
15	演習	ワークショップ	
準備学習 時間外学習	自曲のコードワークの見直し。		
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	2、筆記試験 100%	
教材	教科書	なし	
	参考書	なし	
学生への メッセージ	自曲に様々なバリエーションを加えたり、自分の生み出したメロディーを更に輝かせる為に必要な知識になります。 真剣に取り組んで下さい。		

## カレッジ音楽科 シラバス

科目名	OA実習(デザイン制作Ⅱ)	担当教員名	澤本美代子
時間数	60	必修・選択	配当年次
曜日・時限			2年次 前期
		教室	601教室
授業の到達目標	<p>PCの各種アプリケーションの操作を学び、デジタルデータを目的に合わせて活用できるようになる。 課題制作を通じて、仕事のワークフローを理解する。</p>		
授業の内容	<p>※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する教科書を用いた講義とPC・iPad等マルチデバイスを使っての各種アプリケーションの使い方を学習する。 素材の入手、加工を含め、データの扱い方を学び、各種制作物の演習で実践方法を学ぶ。</p>		
【実務経験】	<p>出版社の制作部門でディレクションを担当。アナログから完全デジタルデータ入稿への移行を通じ、各種アプリケーションを習得。</p>		
回数	授業形態	内容	
1	演習	イラストレーターの応用操作(画像配置・文字入力)	
2	演習	イラストレーターの応用操作(画像配置・文字入力)	
3	演習	イラストレーターの応用操作(画像配置・文字入力)	
4	演習	フォトショップの基本操作(レイヤー・解像度)、写真のリサイズ	
5	演習	ハガキサイズのデザイン(写真配置・クリッピングマスク・文字マスク)	
6	演習	チケット、配置図の作り方(選択ツールとダイレクト選択ツール)	
7	演習	色の学習(カラーモード)、グラデーション	
8	演習	写真画像の色調補正の基礎	
9	演習	フリー素材の活用(素材サイトの使い方、加工)	
10	演習	画像加工をメインとしたフライヤーの作成	
11	演習	画像加工をメインとしたフライヤーの作成	
12	演習	後期試験(課題制作)	
13	演習	フィードバック、前期のまとめ解説	
14	演習	ワークショップ	
15	演習	ワークショップ	
準備学習 時間外学習	<p>各種画像データの準備。 課題制作用のデータ、各種プロジェクトの制作物で積極的に実践・復習する。</p>		
成績評価	<p>1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)</p>	課題100%	
教材	教科書	Illustrator CS6、Photoshop CS6( VI STA ARTS発行)	
	参考書		
学生への メッセージ	<p>PC、タブレット、スマートフォンとマルチデバイスを活用出来るスキルは大きな強みになります。使用方法だけでなく、デジタルデータの扱い方、ワークフローを通じて仕事の流れ、役割も理解していきましょう。</p>		

## カレッジ音楽科 シラバス

科目名	ビジネスマナー(コミュニケーションベーシック)		担当教員名	北林 圭
単位数	30	必修・選択	配当年次	2年次 前期
曜日・時限		選択	教室	801
授業の到達目標	<p>コースの垣根を越えて分け隔てなく繋がりを形成し、新たな環境に自分が置かれた時の対処法・コミュニケーション能力を培う。 前期終盤には後期へ向けて、自分自身の前期の振り返りと、後期の目標をクラス全員の前で発表できるようになる。</p>			
授業の内容	<p>産業カウンセラー4年、委託でOSMで3年間授業を担当。</p> <p>体感型ワークと自己を見つめる(自己受容)プリントワークを使用。 1対1での会話、1対多数での会話・主張を実践。人前で自分の考えや想いを伝える練習。 授業を通して、自分や周りのクラスメイトの新たな魅力を発見する。 ※学生の状況などで、予告なく授業内容を変更する場合がございます。</p>			
【実務経験】	産業カウンセラー4年、委託でOSMで3年間授業を担当。			
日程	授業形態	内容		
1	演習	オリエンテーション/ファーストコミュニケーション実習・総当たりインタビュー		
2	演習	他者紹介・短時間でクラスメイトについて知る		
3	演習	傾聴・話の聞き方で印象の受け方・与え方を感じる(メラビアン法則)		
4	演習	目標設定・短期から長期の目標を掲げ、何が必要かを認識する		
5	演習	捉え方・自分の事柄の考え方、捉え方の傾向を知る		
6	演習	ミニプレゼンテーション 適切なフィードバック		
7	演習	ミニプレゼンテーション 適切なフィードバック		
8	演習	ミニプレゼンテーション 適切なフィードバック		
9	演習	ミニプレゼンテーション 適切なフィードバック		
10	演習	ミニプレゼンテーション 適切なフィードバック		
11	演習	ミニプレゼンテーション 適切なフィードバック		
12	演習	ミニプレゼンテーション 適切なフィードバック		
13	演習	後期の振り返りのプリント記入		
14	演習	ワークショップ		
15	演習	ワークショップ		
準備学習 時間外学習	プレゼンテーションの事前準備と原稿確認			
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	1. 実技 80% 2. 筆記 10% 3. 課題 10%		
教材	教科書	なし		
	参考書	なし		
学生への メッセージ	人間の悩みはほとんどが対人関係から生まれていると言われています。得意・不得意はあると思いますが、切っても切れない部分ですので、皆で楽しく学び、ご自身の目標達成に生かしていきましょう！			

## カレッジ音楽科 シラバス

科目名	映像制作(ミュージックビデオ制作Ⅱ)		担当教員名	林 耐治
時間数	120	必修・選択	配当年次	2年次 前期
曜日・時限			教室	A503
授業の到達目標	1年次に習得した知識、技術、感性の深化。より優れた映像作品の完成を目指す。実習を中心に 行い、作品を作りながら、あるいは作品の鑑賞を通じて、適宜、撮影、編集、演出の指導をして いく。			
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する 毎週、課題を与え映像作品を作ってもらおう。また、公募作品にも積極的に参加し、受賞を狙う。「現場感」 を知り、被写体に演出と時間をかけ、「なっとくのいく良い絵作り」に挑戦してもらい、演出能力を高めて もらおう。具体的には女性モデルを数人起用し、各モデルのオリジナルPVを制作。「かわいい」「きれい」 「かっこいい」女性を撮影し、編集でCGなどを加えながら仕上げる。ミュージックビデオの制作は後期に予 定しているが、学生の意欲と実力いかんでは前期も実施する可能性あり。 【実務経験】 ドラマ・CM、イベントやコンサート 動画、ドキュメンタリー、ライブ中継など			
回数	授業形態	内容		
1	演習	1年次後期に作成したPVの検証。課題を与えて即興作品作り。		
2	演習	モデルPVの制作準備とトレーニング		
3	演習	モデルPVの制作準備とトレーニング(編集編1)※チーム編成、内容決定		
4	演習	モデルPVの制作準備とトレーニング(編集編2)※絵コンテ制作		
5	演習	モデルPVの制作準備とトレーニング(撮影編)		
6	演習	モデルPVの制作		
7	演習	モデルPVの制作		
8	演習	モデルPVの制作		
9	演習	モデルPVの制作		
10	演習	公募用映像の制作		
11	演習	公募用映像の制作		
12	演習	公募用映像の制作		
13	演習	公募用映像の制作		
14	演習	ワークショップ		
15	演習	ワークショップ		
準備学習 時間外学習	日頃からたくさんの作品を観ましょう。			
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	1. 授業に対する取り組み姿勢 50% 2. 授業内で制作する作品および提出課題の出来 50%		
教材	教科書	講師より適時、プリントを配布		
	参考書	月刊誌 ビデオサロン (玄光社より毎月 発行)		
学生への メッセージ	私の授業を受講してくれた学生は、着実に力をつけてくれています。その力をさら に伸ばすため、制作機会をさらに増やし、自身で「気づく」授業を展開していきま す。忙しいですが、とにかく作る楽しみに満ちた時間を過ごしていきましょう。			

## カレッジ音楽科 シラバス

科目名	放送(舞台機構)	担当教員名	坂本 充勇
時間数	60	必修・選択	配当年次
曜日・時限		選択	教室
授業の到達目標	舞台に必要な基礎知識並びに安全作業及び職業環境に対する意識向上を身に付ける		
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する		
舞台機構・舞台図面・舞台用語の基礎知識。また公演組織の役割。さらに現場での作業に必要な初歩の安全衛生について。			
【実務経験】株式会社スタッフユニオンにて勤務。舞台監督、美術に従事。2018年より株式会社ザ・シンフォニーホール ステージアンネージャーとして勤務。			
回数	授業形態	内容	
1	演習	前期授業概要説明・到達目標と目的の説明など	
2	演習	舞台機構 現代の舞台の名称と役割	
3	演習	尺貫法とヤード・ポンド法 / 図面の読み方	
4	演習	舞台機構 古典(能)舞台の名称と役割 (歴史的背景を踏まえて 五行思想など)	
5	演習	舞台機構 古典(能)舞台の名称と役割 (歴史的背景を踏まえて 五行思想など)	
6	演習	舞台用語解説	
7	演習	舞台用語解説	
8	演習	舞台用語解説	
9	演習	舞台用語解説	
10	演習	舞台用語解説	
11	演習	舞台用語解説	
12	演習	安全衛生教育①(舞台に必要な基礎知識の確認)	
13	演習	安全衛生教育②(安全作業及び職業環境に対する意識の確認)	
14	演習	ワークショップ	
15	演習	ワークショップ	
準備学習 時間外学習	たくさんの作品を観ましょう。		
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	筆記試験50%	出席率50%
教材	教科書	自作編集の冊子	
	参考書	特に無し	
学生への メッセージ	舞台上で使用される言葉・機構・物の歴史的背景を学び理解を深めましょう。		

## カレッジ音楽科 シラバス

科目名	放送(舞台美術デザイン)	担当教員名	あまのしげ
時間数	60	必須	配当年次
曜日・時限			教室
授業の到達目標	舞台美術デザインの基礎的表現力を身につけることができる。		
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する 1982年の活動開始より、44回にわたり個展を開催。岸和田市文化振興審議会委員、岸和田市景観審議会委員、岸和田文化事業協会理事等を歴任。大阪芸術大学、四国大学で非常勤講師を勤めた。市民講座「絵画のひみつ」を岸和田市、和泉市、豊中市、堺市などで行った。現在、毎日文化センター講師、大阪芸術大学通信教育部講師。 舞台美術デザインの基礎的演習を行う。デザイン表現に於いて、創造力、表現力と何事かへの関心度が求められる。演習課題から基礎的表現力をつけ、さらには自主的に表現することの喜びを感じ取ってもらいたい。		
回数	授業形態	内容	
1	演習	授業のあらましと、評価の方法	
2	演習	紙による正六面体の制作。紙について、用具の使用法	
3	演習	デッサン。鉛筆について。	
4	演習	デッサン。明暗法	
5	演習	三原色による色彩構成	
6	演習	三原色による色彩構成	
7	演習	段ボール・クラフト(モデルの動物をつくる)	
8	演習	段ボール・クラフト(モデルの動物をつくる)	
9	演習	段ボールクラフト(オリジナルの動物を制作する)	
10	演習	段ボールクラフト(オリジナルの動物を制作する)	
11	演習	お菓子の箱の模写	
12	演習	お菓子の箱の模写	
13	演習	お菓子の箱の模写	
14	演習	ワークショップ	
15	演習	ワークショップ	
準備学習 時間外学習	道具の取り扱い、メンテナンスを丁寧にする		
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	課題100%	
教材	教科書	なし	
	参考書		
学生への メッセージ	もの、他者、自分へ興味を持つこと。		

## カレッジ音楽科 シラバス

科目名	照明 (LTベーシック)	担当教員名	株式会社ハートス
時間数	120	必修・選択	配当年次
曜日・時限			教室
授業の到達目標	照明機材 調光卓の基本的な操作 オペレート 技術の習得。		
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する 実務経験 株式会社ハートスより15年以上の教員が 舞台照明の基本的知識を講義・演習を行う。 また 実地に基づき様々な機材を使用し照明実習を行う。		
回数	授業形態	内容	
1	演習	照明の仕事について 授業内容説明 前期目標設定 機材説明	
2	演習	機材説明 操作方法 種類と仕組みについて	
3	演習	機材説明 操作方法 種類と仕組みについて	
4	演習	仕込みの基本説明 調光操作卓の基本説明 実習	
5	演習	仕込み図の説明 カラーフィルター取扱い 種類 仕込み図を読み解く	
6	演習	調光操作卓の操作説明 照明機材による 表現方法	
7	演習	シュート棒 脚立による シュート方法 実習	
8	演習	PINSPOТ 操作実習	
9	演習	現場での様々なトラブルを想定 対処方法実習	
10	演習	調光操作卓の操作説明 サブマスター エフェクト実習	
11	演習	調光操作卓の操作説明 Qシーン作成 自動演出	
12	演習	PINSPOТ 操作実習 2	
13	演習	PINSPOТ 操作実習 3	
14	演習	ワークショップ	
15	演習	ワークショップ	
準備学習 時間外学習	前回で行った操作を次の授業までに繰り返し行う		
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	1. 100% 授業に対する取り組み・理解力確認・総合評価60点以上合格	
教材	教科書		
	参考書		
学生へのメッセージ			

## カレッジ音楽科 シラバス

科目名	作曲・編曲(楽曲提供ゼミⅠ)	担当教員名	西田 和史
時間数	60	必修・選択	配当年次
曜日・時限		必修	教室
授業の到達目標	自分自身のスタイルを確立するとともに、様々な企画に対応できるよう表現の幅を広げる。世の中での自分の曲のポジション(クオリティー、ポピュラリティー、ジャンル、イメージなど)を知る。		
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する 企業課題(CM音楽、映画音楽、アイドル、バンド、イベント音楽など)に取り組み、仕事における楽曲制作のノウハウを学ぶ。また自身の活動方針にあったプロモーションツールを作成する。 【実務経験】1994年大阪スクールオブミュージック専門学校卒業。劇団神戸及び、スタジオアキラにてマネージャー、エンジニアとして活動。2000年よりPowerFXなど海外サウンドデベロッパーに数多くのサウンドを提供。グリッチ、アンビエント系サウンドを得意とするクリエイター。1996年よりインストラクターとしても活動。		
回数	授業形態	内容	
1	演習	企業課題への取り組み方と情報管理	
2	演習	これまでの学習知識の実作業への応用	
3	演習	新知識の獲得法	
4	演習	自身での勉強法の獲得	
5	演習	企画・プロデュースカアップ	
6	演習	プロモーションカアップ	
7	演習	コンセプトに沿った楽曲制作力	
8	演習	制作指導と問題解決への課題	
9	演習	制作指導と問題解決への課題	
10	演習	制作指導と問題解決への課題	
11	演習	制作指導と問題解決への課題	
12	演習	制作指導と問題解決への課題	
13	演習	自身の今後の課題と制作・学習プランの確認	
14	演習	ワークショップ	
15	演習	ワークショップ	
準備学習 時間外学習	全ての課題に締め切りが設定されますので、事業時間外での制作が必須となります。		
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	3.課題 100%	
教科書	教科書		
	参考書		
学生への メッセージ	どのように仕事を進めるのか、仕事に必要なクオリティーを体感し、自作曲のクオリティーアップにつなげましょう！		

## カレッジ音楽科 シラバス

科目名	作曲・編曲(楽曲提供ゼミⅠ)	担当教員名	西田 和史
時間数	60	必修・選択	配当年次
曜日・時限		必修	教室
授業の到達目標	605・606・501		
自分自身のスタイルを確立するとともに、様々な企画に対応できるよう表現の幅を広げる。世の中での自分の曲のポジション(クオリティー、ポピュラリティー、ジャンル、イメージなど)を知る。			
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する		
企業課題(CM音楽、映画音楽、アイドル、バンド、イベント音楽など)に取り組み、仕事における楽曲制作のノウハウを学ぶ。また自身の活動方針にあったプロモーションツールを作成する。 【実務経験】1994年大阪スクールオブミュージック専門学校卒業。劇団神戸及び、スタジオアキラにてマネージャー、エンジニアとして活動。2000年よりPowerFXなど海外サウンドデベロッパーに数多くのサウンドを提供。グリッチ、アンビエント系サウンドを得意とするクリエイター。1996年よりインストラクターとしても活動。			
回数	授業形態	内容	
1	実習	様々な企業課題のプレゼンテーション	
2	実習	自身が参加している企画・課題の制作スケジュールを作る	
3	実習	制作スケジュールを実現するための自身の行動計画を練る①	
4	実習	制作スケジュールを実現するための自身の行動計画を練る②	
5	実習	(これまでの学習知識の実作業への応用)	
6	実習	新知識の獲得	
7	実習	自身での勉強法の獲得	
8	実習	企画・プロデュースカアップ	
9	実習	プロモーションカアップ	
10	実習	コンセプトに沿った楽曲制作力①	
11	実習	コンセプトに沿った楽曲制作力②	
12	実習	コンセプトに沿った楽曲制作力③	
13	実習	自身の今後の課題と制作・学習プランの確認	
14	実習	ワークショップ	
15	実習	ワークショップ	
準備学習 時間外学習	全ての課題に締め切りが設定されますので、事業時間外での制作が必須となります。		
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	3.課題 100%	
教科書	教科書		
	参考書		
学生への メッセージ	どのように仕事を進めるのか、仕事に必要なクオリティーを体感し、自作曲のクオリティーアップにつなげましょう！		

## カレッジ音楽科 シラバス

科目名	作曲・編曲(オーケストラシミュレートI)		担当教員名	小林 哲
時間数	30	必修・選択	配当年次	2年次 前期
曜日・時限		必修	教室	605
授業の到達目標	和声法の知識、ストリングスの自作曲への活用。映像音楽、ゲーム音楽への応用と活用。			
授業の内容	<p>※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する</p> <p>和声法を座学だけでなく、Cubase でシミュレートしながら実際の響きでも理解する。  ストリングス各楽器の知識を基に、プログラミングのスキルを学ぶ。  4声～大編成のストリングスセクションのインスト曲への応用の仕方の習得  歌モノでのストリングスセクションの使い方の習得。  【実務経験】作編曲家。1998年のデビュー以降、ZARDをはじめビーイング系アーティストの編曲を数多く手がける。1999年より母校でもある大阪スクールオブミュージック専門学校にて作、編曲の講師を務め現在に至る。Steinberg 認定講師。</p>			
回数	授業形態	内容		
1	演習	3和音の連合(1) 声部進行の種類学習、練習課題		
2	演習	3和音の連合(2) 和音結合の方法学習、練習課題		
3	演習	3和音の連合(3) 終止形学習、練習課題		
4	演習	3和音の転回 六の和音学習、練習課題		
5	演習	3和音の転回 四六の和音 1 学習、練習課題		
6	演習	3和音の転回 四六の和音 2 学習、練習課題		
7	演習	VI、Vaの基礎知識、奏法学習、実習課題		
8	演習	七の和音(1) 属七の和音学習、練習課題		
9	演習	七の和音(2) 属七の和音の転回学習、練習課題		
10	演習	七の和音(3) 属七の和音とその転回和音の不規則な解決学習、練習課題		
11	演習	副七の和音学習、練習課題		
12	演習	Vc、Dbの基礎知識、奏法学習、実習課題		
13	演習	歌モノ楽曲におけるStringsアレンジ 初級編 Into～A プロダクション		
14	演習	ワークショップ		
15	演習	ワークショップ		
準備学習 時間外学習	ストリングスのフューチャーされた楽曲を聞き込んで、使われ方、ミレージングの研究。			
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	3、課題 100%		
教材	教科書	なし		
	参考書	なし		
学生への メッセージ	自曲のアレンジにストリングスを使いたければ、必須の知識とスキルになります。シンフォニック系楽曲の基礎になる科目なので、真剣に取り組んで下さい。			

## カレッジ音楽科 シラバス

科目名	作曲・編曲(オーケストラシミュレートI)		担当教員名	小林 哲
時間数	30	必修・選択	配当年次	2年次 後期
曜日・時限		必修	教室	605
授業の到達目標	和声法の知識、ストリングスの自作曲への活用。映像音楽、ゲーム音楽への応用と活用。			
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する 和声法を座学だけでなく、Cubase でシミュレートしながら実際の響きでも理解する。 ストリングス各楽器の知識を基に、プログラミングのスキルを学ぶ。 4声～大編成のストリングスセクションのインスト曲への応用の仕方の習得 歌モノでのストリングスセクションの使い方の習得。 【実務経験】作編曲家。1998年のデビュー以降、ZARDをはじめビーイング系アーティストの編曲を数多く手がける。1999年より母校でもある大阪スクールオブミュージック専門学校にて作、編曲の講師を務め現在に至る。Steinberg 認定講師。			
回数	授業形態	内容		
1	演習	歌モノ楽曲におけるStringsアレンジ、実習課題		
2	演習	変化3和音の学習、練習課題		
3	演習	変化3和音の学習、練習課題		
4	演習	借用和音の学習、練習課題		
5	演習	変化七の和音の学習、練習課題		
6	演習	和声外音／掛留の学習、練習課題		
7	演習	掛留の学習、練習課題		
8	演習	Strings Sectionnメインの楽曲、制作実習		
9	演習	2声対位法 1:1 等価対位法の学習、実習課題		
10	演習	2声対位法 1:2 2分割対位法の学習、実習課題		
11	演習	2声対位法 1:2 2分割対位法の学習、実習課題		
12	演習	歌モノ楽曲におけるStringsアレンジ、実習課題		
13	演習	歌モノ楽曲におけるStringsアレンジ、実習課題		
14	演習	ワークショップ		
15	演習	ワークショップ		
準備学習 時間外学習	ストリングスのフューチャーされた楽曲を聞き込んで、使われ方、アレンジの研究。			
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	3、課題 100%		
教材	教科書	なし		
	参考書	なし		
学生への メッセージ	自曲のアレンジにストリングスを使いたければ、必須の知識とスキルになります。 シンフォニック系楽曲の基礎になる科目なので、真剣に取り組んで下さい。			

## カレッジ音楽科 シラバス

科目名	楽器レッスン( SPL)		担当教員名	奈良木 俊赫
時間数	30	必修・選択	配当年次	2年次
曜日・時限			教室	EN631
授業の到達目標	ボイストレーニング、歌唱における基礎力の向上、基礎力の定着及び、アーティストとしての表現力の向上			
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する 発声の基礎となる低音、声帯のストレッチ、ファルセットのトレーニング方法を伝えると同時に、洋楽の課題曲を与え、コピーを目標に日々練習をしてもらい、発声、歌唱ともに毎授業トレーニング成果をチェックし、プロとして必要な声、歌唱力を身につける。また、授業のはじめに外化(会話)を一人ずつ行う。日々の生活の中で感じた事、想っている事を話してもらい、コミュニケーションを取りながら「伝える」という事を学ぶ。			
	【実務経験】2007年にOSMを卒業後、日本を代表するゴスペルグループSCULMATTI CSのメンバーとして活動中。LA、シカゴ、韓国などの海外ツアーへの参加や、2015、2017に東宝ミュージカル「RENT」へ出演すると同時にカンパニーの歌唱指導を担当。現在は関西ジャニーズJr.のボーカルトレーニングを行なっている。			
回数	授業形態	内容		
1	演習	短いカウンセリング(質疑応答)、目標の確認、発声チェック、歌唱チェック		
2	演習	外化、発声チェック、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)		
3	演習	外化、発声チェック、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)		
4	演習	外化、発声チェック、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)		
5	演習	外化、発声チェック、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)		
6	演習	外化、発声チェック、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)		
7	演習	外化、発声チェック、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)		
8	演習	外化、発声チェック、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)		
9	演習	外化、発声チェック、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)		
10	演習	外化、発声チェック、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)		
11	演習	外化、発声チェック、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)		
12	演習	外化、発声チェック、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)		
13	演習	外化、発声チェック、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)		
14	演習	ワークショップ		
15	演習	ワークショップ		
準備学習 時間外学習	授業でおこなった発声練習を、1日30分週4日以上行う 課題曲の練習			
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	1. 出席率(70%) 2. 発表会への参加・実技試験(30%)		
教材	教科書			
	参考書			
学生へのメッセージ	才能が半分でも努力が勝つ！ 一緒に夢実現へ向けて進みましょう！			

## カレッジ音楽科 シラバス

科目名	楽器レッスン(ファンデーションAgtr)		担当教員名	森島 達雄
時間数	30	必修・選択	配当年次	2年次
曜日・時限		選択	教室	E N 232
授業の到達目標	アコースティックギターのコードストロークで曲を演奏できるようになる。(数曲)			
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する基本的なコードの習得。演奏情報として8ビートリズムを読み、演奏できる様にしていく。シンプルな楽曲を利用して応用力を身につけていく。			
【実務経験】	1979年よりプロとしての演奏活動を始める。平行して同年よりヤマハ音楽振興会にてレッスン活動も始める。現在に至るまで、数多くのライブサポート、レコーディング、テキスト開発に携わっている。			
回数	授業形態	内容		
1	演習	基本コードを使って音符・リズムの理解①全、2分、4分、8分音符		
2	演習	基本コードを使って音符・リズムの理解②タイの読み方、弾き方		
3	演習	基本コードを使って音符・リズムの理解③タイの読み方、弾き方 続き		
4	演習	基本コードを使って音符・リズムの理解④符点の読み方、弾き方		
5	演習	基本コードを使って音符・リズムの理解⑤符点の読み方、弾き方 続き		
6	演習	曲を弾いてみよう。＜ジャンバラヤ＞リズム譜読みトレーニング		
7	演習	曲を弾いてみよう。＜ジャンバラヤ＞リズム譜読みトレーニング		
8	演習	3連譜の読み方、弾き方①		
9	演習	3連譜の読み方、弾き方②		
10	演習	曲を弾いてみよう。＜オワリはじまり＞シャッフルリズム①		
11	演習	曲を弾いてみよう。＜オワリはじまり＞シャッフルリズム②		
12	演習	曲を弾いてみよう。＜オワリはじまり＞リズム読みトレーニング総復習		
13	演習	曲を弾いてみよう。＜オワリはじまり＞リズム読みトレーニング総復習		
14	演習	ワークショップ		
15	演習	ワークショップ		
準備学習 時間外学習	できるだけ毎日練習する時間を作って下さい。(15分～30分)			
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	通常授業の取り組み方、学習努力及び出席率で評価		
教材	教科書			
	参考書			
学生へのメッセージ	授業に出ているだけでは弾けるようにはなれません。絶対弾ける様になってやるという意志が大事です。がんばって下さい。			

## カレッジ音楽科 シラバス

科目名	楽器レッスン(ファンデーションBass)		担当教員名	桑原 正
時間数	30	必修・選択	配当年次	2年次
曜日・時限		選択	教室	E N 432
授業の到達目標	ベースという楽器を基礎から学び楽器の特性を知ること为目标とする。授業内のテーマを学習することにより、楽曲においてのベースの役割を学び自己の音楽力向上が目標となる。			
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する定番のフレーズを持つ課題曲を通じてリズムや音使い、フォームや運指などベースの基礎を学びます。			
【実務経験】	1993年大阪スクールオブミュージック専門学校卒業後、関西を中心にLive活動をする。インストラクターとしても15年以上のキャリアを持つ。			
回数	授業形態	内容		
1	演習	Cメジャースケールを色々なポジションで弾く。		
2	演習	定番の8beatフレーズを弾く。		
3	演習	課題曲、Have you Ever Seen The Rain		
4	演習	(初めてベースを弾く人も、曲を最後まで演奏する感覚を知ってもらう。)		
5	演習	課題曲、Proud Mary		
6	演習	(8 beat の定番フレーズのトレーニング。)		
7	演習	課題曲、Every Breath You Take		
8	演習	(8 best の定番フレーズのトレーニング。)		
9	演習	運指トレーニング (左右のフォームをチェックする。)		
10	演習	課題曲、Get Ready		
11	演習	(ベースのリフが中心となる曲をトレーニングする。)		
12	演習	Slapトレーニング (Slap奏法をトレーニングする。)		
13	演習	前期のまとめ		
14	演習	ワークショップ		
15	演習	ワークショップ		
準備学習 時間外学習	前回授業の内容を復習。			
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	授業内評価100%		
教材	教科書			
	参考書			
学生への メッセージ	初めてベースを弾く人も基礎から学べる授業です。			

## カレッジ音楽科 シラバス

c	楽器レッスン(ファンデーションDr)		担当教員名	杉山聡信
時間数	30	必修・選択	配当年次	2年次
曜日・時限		選択	教室	EN231
授業の到達目標	ドラムを通して様々なリズムに触れ、仕組みを理解し、実際にドラムセットに触れて演奏することで、音楽力・リズム力の向上を目指し自身の本来のパートを強化することが目標である。			
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する 毎授業ごとに変わる課題曲を用いて演奏に必要なリズムパターンを学習。ジャンル毎に必要なフレージングを覚え実際にドラムセットを使い演奏し習得する。			
【実務経験】2006年OSMを卒業後、自身のバンドでCDデビュー。バンド活動と共にシンガーソングライターのパックバンドも数多く担い現在プロ活動14年目を迎え、メジャーでは主にavexやよしもとクリエイティブエージェンシーのアーティストの他、FM802や吉本興業の芸人のバックバンドも務めている。吉本新喜劇の内場勝則座長のミュージカルでのドラム演奏指導などレッスン業も勢力的に行っている。				
回数	授業形態	内容		
1	演習	課題曲の分析と必要なリズムパターンの講義・実習。		
2	演習	課題曲の分析と必要なリズムパターンの講義・実習。		
3	演習	課題曲の分析と必要なリズムパターンの講義・実習。		
4	演習	課題曲の分析と必要なリズムパターンの講義・実習。		
5	演習	課題曲の分析と必要なリズムパターンの講義・実習。		
6	演習	課題曲の分析と必要なリズムパターンの講義・実習。		
7	演習	課題曲の分析と必要なリズムパターンの講義・実習。		
8	演習	課題曲の分析と必要なリズムパターンの講義・実習。		
9	演習	課題曲の分析と必要なリズムパターンの講義・実習。		
10	演習	課題曲の分析と必要なリズムパターンの講義・実習。		
11	演習	課題曲の分析と必要なリズムパターンの講義・実習。		
12	演習	課題曲の分析と必要なリズムパターンの講義・実習。		
13	演習	課題曲の分析と必要なリズムパターンの講義・実習。		
14	演習	ワークショップ		
15	演習	ワークショップ		
準備学習 時間外学習	ドラムは同じパターンでできあがっている部分が大いにあり、何度も同じ動きを繰り返して慣れることが重要です。毎回紹介されるリズムパターンを繰り返し慣れるまで練習してきてください。			
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	授業内評価 100%		
教材	教科書			
	参考書	随時配布、譜面、音資料		
学生へのメッセージ	最初は難しいと思いますが自転車みたいなもので乗れたらもう乗れるしかないんです。この授業ではポップス・ロックを中心にとりあえずドラム叩けますと言えるレベルまでにしたいです。できるようになるまで個人差はあるし僕も最初は時間かかったと思いますが、実は同じ動きの繰り返しが多くて1ブロックずつ覚えたら案外すぐできちゃったりします。みんなで一緒に練習するつもりでリズム感鍛えていきましょう。			

## カレッジ音楽科 シラバス

科目名	進級制作Ⅱ		担当教員名	北畑 俊明/福岡 直子
時間数	90	必修・選択	配当年次	2年次 前期
曜日・時限		必修	教室	301・403・901
授業の到達目標	<p>レコーディング、ミキシング、マスタリングの総合的オペレーション能力の向上。 クリエイター、アーティスト、プロデューサーの感性やリーダーシップ能力、コミュニケーション能力の向上。</p>			
授業の内容	<p>※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する 2000年に設立されたレコーディング、マスタリングスタジオのアルケミースタジオのエンジニアによる実践的授業。学校内外のミュージシャンとのセッションや既存のデータによる様々なジャンルのレコーディング、ミックス、マスタリング。前期は様々な編成、ジャンルの録音の方法や考えを学び、後期はセッションを通じて、さらに作業のスピード、確実性、信頼性をも学んでいきます。 【実務経験】大学卒業後、ドラマー、PAエンジニアの仕事につく。後にアルケミースタジオを設立。以後、レコーディングエンジニアを主に、レコーディングエンジニア、マスタリングエンジニア、PAエンジニア、ドラマーとして活動。</p>			
回数	授業形態	内容		
1	演習	授業計画および方針の説明と確認		
2	演習	ハイスクールバンド・レコーディング曲のMIX作業①		
3	演習	ハイスクールバンド・レコーディング曲のMIX作業②		
4	演習	バックトラック音源によるソロヴォーカル・レコーディング① ※新人発掘プレゼンツール用		
5	演習	バックトラック音源によるソロヴォーカル・レコーディング② ※新人発掘プレゼンツール用		
6	演習	弾き語りレコーディング:ギター編		
7	演習	弾き語りレコーディング:ピアノ編		
8	演習	ユニット編成のレコーディング		
9	演習	バンドレコーディング:小編成バンド編		
10	演習	バンドレコーディング:大編成バンド編①		
11	演習	バンドレコーディング:大編成バンド編②		
12	演習	様々なジャンルのレコーディング①		
13	演習	様々なジャンルのレコーディング②		
14	演習	完成音源プレゼンテーション		
15	演習	振り返り		
準備学習 時間外学習	次回セッションに向けて参考音源を視聴し、レコーディングプランを立てる。			
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	課題作品提出(100%)		
教材	教科書	音響設備マニュアル		
	参考書			
学生へのメッセージ	いままで学んだ基本知識をより実践的、実用的に様々な現場に対応できる理論、経験、知識をみにつけ、自分自信で解析、判断、解決、する能力を高めてください。			

## カレッジ音楽科 シラバス

科目名	進級制作Ⅱ		担当教員名	北畑 俊明/福岡 直子
時間数	90	必修・選択	配当年次	2年次 後期
曜日・時限		必修	教室	301・403・901
授業の到達目標	<p>レコーディング、ミキシング、マスタリングの総合的オペレーション能力の向上。 クリエイター、アーティスト、プロデューサーの感性やリーダーシップ能力、コミュニケーション能力の向上。</p>			
授業の内容	<p>※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する 2000年に設立されたレコーディング、マスタリングスタジオのアルケミースタジオのエンジニアによる実践的授業。学校内外のミュージシャンとのセッションや既存のデータによる様々なジャンルのレコーディング、ミックス、マスタリング。前期は様々な編成、ジャンルの録音の方法や考えを学び、後期はセッションを通じて、さらに作業のスピード、確実性、信頼性をも学んでいきます。 【実務経験】大学卒業後、ドラマー、PAエンジニアの仕事につく。後にアルケミースタジオを設立。以後、レコーディングエンジニアを主に、レコーディングエンジニア、マスタリングエンジニア、PAエンジニア、ドラマーとして活動。</p>			
回数	授業形態	内容		
1	演習	授業計画および方針の説明と確認		
2	演習	ジャズバンド・レコーディング		
3	演習	ジャズバンド・レコーディング		
4	演習	ジャズバンド・レコーディング曲のMIX作業①		
5	演習	ジャズバンド・レコーディング曲のMIX作業②		
6	演習	弦楽演奏・レコーディング		
7	演習	弦楽演奏・レコーディング		
8	演習	弦楽演奏・レコーディング曲のMIX作業①		
9	演習	弦楽演奏・レコーディング曲のMIX作業②		
10	演習	各自プロデュース曲のマスタリング作業①		
11	演習	各自プロデュース曲のマスタリング作業②		
12	演習	各自プロデュース曲のマスタリング作業③		
13	演習	各自プロデュース曲のマスタリング作業④		
14	演習	完成音源発表会		
15	演習	振り返り		
準備学習 時間外学習	次回セッションに向けて参考音源を視聴し、レコーディングプランを立てる。			
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	課題作品提出(100%)		
教材	教科書	音響設備マニュアル		
	参考書			
学生へのメッセージ	いままで学んだ基本知識をより実践的、実用的に様々な現場に対応できる理論、経験、知識をみにつけ、自分自信で解析、判断、解決、する能力を高めてください。			